

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

報告番号	甲医第 1586号	氏名	坂東 貴司
審査委員	主査 橋本 一郎 副査 大藤 純 副査 竹谷 豊		

題目 Concomitant Use of Multiple Nephrotoxins Including Renal Hypoperfusion Medications Causes Vancomycin-Associated Nephrotoxicity: Combined Retrospective Analyses of Two Real-World Databases

(腎血流量を低下させる薬剤を含む複数の腎毒性を有する薬の併用はバンコマイシン関連腎障害を引き起こす: 2つのリアルワールドデータベースを組み合わせた後方視的研究)

著者 Takashi Bando, Masayuki Chuma, Hirofumi Hamano, Takahiro Niimura, Naoto Okada, Masateru Kondo, Yuki Izumi, Shunsuke Ishida, Toshihiko Yoshioka, Mizuho Asada, Yoshito Zamami, Kenshi Takechi, Mitsuhiro Goda, Koji Miyata, Kenta Yagi, Yuki Izawa-Ishizawa, Momoyo Azuma, Hiroaki Yanagawa, Yoshikazu Tasaki, Keisuke Ishizawa  
 2023年発行 Acta Medica Okayamaに掲載予定  
 (主任教授 石澤 啓介)

要旨 バンコマイシンは、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の第一選択薬である。一方、副作用として高頻度に腎障害を発症することが知られており、発症した場合は予後不良となる。バンコマイシンによる腎障害発症のリスク因子として、腎毒性を有する薬の併用が報告されているが、その多剤併用の影響は明らかでない。そこで申請者らは、腎毒性を有する薬の多剤併用とバンコマイシ

ン関連腎障害発症との関係について検討した。

解析には有害事象自発報告データベースである Food and Drug Administration Adverse Event Reporting System (FAERS) と、徳島大学病院の Electronic Medical Record (EMR) の、2種類の性質の異なるデータベースを用いて解析を行った。

得られた結果は以下の通りである。

- 1) FAERS を用いた解析により、バンコマイシン関連腎障害の報告頻度は、腎毒性を有する薬の併用数増加に伴って上昇した。
- 2) EMR を用いた解析により、バンコマイシン関連腎障害発症と腎毒性を有する薬の併用数との関連が確認された。
- 3) FAERS を用いた解析により、腎毒性を有する薬の多剤併用下におけるバンコマイシン関連腎障害発症の報告率は、腎血流を低下させる薬（血管作動薬、フロセミド、非ステロイド性抗炎症薬）が含まれることで有意に上昇し、その傾向は、EMR を用いた解析においても確認された。

以上の結果から、バンコマイシン関連腎障害の発症リスクにおいて、腎毒性を有する薬の併用数が関連することが明らかとなった。また、多剤併用時に腎血流の低下を誘発する薬が含まれている場合は、バンコマイシン関連腎障害の発症リスクが高くなる可能性が示唆された。

本研究の成果は、多剤併用患者におけるバンコマイシンの適正使用に関する有用な知見であり、その臨床的意義は高く、学位授与に値すると判定した。